

# 日本で唯一千支の辰の字がつく町

町名に辰の字が入った全国唯一の自治体辰野町(たつのまち)

長野県上伊那郡辰野町、千支(えと)の「辰」の字が使われている全国唯一の自治体であるとのこと。かつて辰の字を使った地名は全国各地にあったが、いずれも市町村合併に伴い消滅したという。

2024

辰野町

年

## 干支と町にちなんだ『辰』のイメージロゴ 発表セレモニー

辰野町役場では新年明け仕事始めの4日、今年の干支「辰」と町をイメージしたロゴを披露した。町の職員などが町を盛り上げたいとデザインを考えたという。

ロゴは、町の地形をそのまま「辰」の頭の形にしたものなど5種類。辰野町の武居保男町長は「辰年が終わるころには、どうか笑顔で終わりますように職員ひとりひとりの元氣と勇気で引っ張っていつてもらい



ロゴを発表する町長と職員の皆さん



ロゴが入ったパネルに「辰」の字を筆書きする町長

たい」と挨拶した。ロゴは、今後ポスターやイベントに活用していくという。セレモニーでは武居町長が、ロゴが入ったパネルに「辰」の字を書き込み、辰年の1年をスタートさせた。長野県のほぼ中央部にあり、いわゆる日本の「ど真ん中町」としても様々なプロジェクトを展開、ホテルが乱れ舞飛ぶ松尾峡が観光名所で、6月に開催される「信州辰野ほたる祭り」でも賑わいを見せる辰野町に注目である。

## 特集

# 長野県辰野町



町の職員などがデザインしたロゴ

### 「辰野の地名」のいわれ

〜辰野町の昔話より〜  
諸説あるなかの、『辰野の昔話』

(小野公編集昭和58年3月発行) 一文

むかしむかし、信濃の国の最も深い所に大きな二つの湖が、仲良く並んでいました。

上の湖を「諏訪の湖」下の湖を「伊奈の湖」といった。その二つの湖を併せて「信濃

神(しなのかむい)」と村人たちは呼んでいた。伊奈の湖の底には、湖の主の魔物が棲み

ついていたと云う。六月に近づく度に洪水が起きた。この事から村人は、六月近くになると湖の主を鎮める祭りを行うようになった。

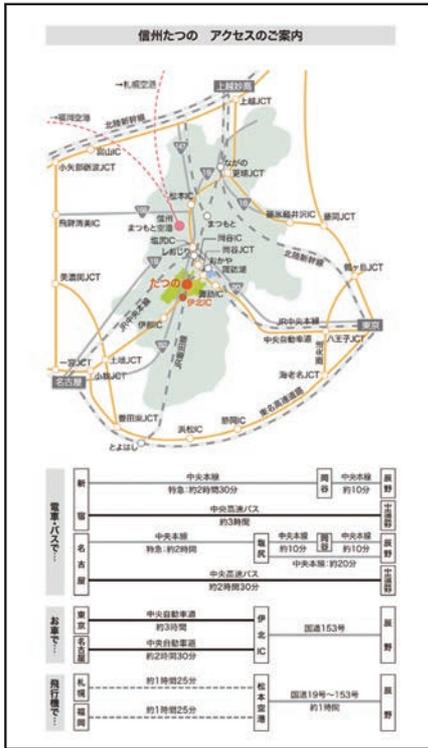
ある年、神主による鎮祭が行われるも、激しい雨と風が村を襲った。鎮祭だけでは、神は満足されなかつたと誰かが叫んだ。

村人の梨恵が、「なら私の身を捧げます」と荒神の丘で手を合わせて身投げしようとした際に、「待て！七月七日、龍は天に昇る」という声が何処からともなく三度聞こえ、

「待て！嵐は止む。湖の主は龍なり」と言い残して走り去った者がおった。

やがて、湖の水が中心へと吸い寄せられ、巨大な水柱が立ち、そこから大きな口を開けた龍が出て来て天へ昇った。その際に、荒神の丘の両端がもろく崩れて伊那谷へ水が流れて行ってしまった。この「伊奈の湖の跡」を

「竜の居た野」「竜野」と呼び、この川を「天竜川」と呼ぶようになった。



### 昔の人々の思いから学ぶ

この辰野町には、かつて龍が棲んでいた湖があり、その龍が昇天したあとに流れ出た水が天竜川になったという伝承がある。

武居町長は「ロマンチックな話というより自然の猛威や天候を龍に見立てた自然への畏怖の念ではないか、しかしながらそれだけに昔の人々は「龍」に対して自然災害への不安や世の中の混乱からの救いを求めているのではないかと。祈り、願いの象徴が龍だったのではないかと、そんな気がしてならない」と昔の人々の叡智、文化に想いを馳せる。

「今、世の中はコロナやインフルエンザが蔓延し、自然災害も多く、国際紛争も出口が見えず、日本経済

は物価高騰に苦しんでいる。この様相は誰かが人間に警鐘を鳴らしていると思えなくもない。「龍」は「架空・想像上の生き物」であつたにしても、今、私たちに求められているのは「幸せな社会」をつくり出す「創造力」ではないか、創造力を発揮して、明るい未来を信じ、夢と希望をもって力強くこの一年を歩んでいきたい」と熱く語った。

混迷を続ける世界、我々一人ひとりに立ち返っても厳しい状況のなか、辰年の「最も幸運で最も繁栄」という特徴に期待しながら、辰野町にもあやかりながら、まさに龍神のごとく、また、昇龍の勢いをもって一所懸命努力していきたいと思うところである。 (編集部 原口慎二)

## 特集

# 龍が昇る 2024年辰年の辰野町

### 「辰年」の特徴

中国の『漢書律曆志』では「辰」は「ふるう、ととのう」を意味し、陽気が動いて万物が振動し、草木もよく成長して形が整った状態を表すと解釈されている。

また、「たつ」（辰、龍、竜）は十二支の中で唯一「架空の生き物」「想像上の生き物」で隆盛の象徴。辰年の特徴は最も幸運で最も繁栄し、前例のない機会に満ちている、さらに創造性と情熱を解き放ち、勇気と自信をもって夢を追い求める年でもあると言われている。



ほたる童謡公園のホタル乱舞 出典：辰野町観光協会

大正14年に県の天然記念物指定、昭和35年再指定。平成元年環境庁の「ふるさといきもの里」指定。

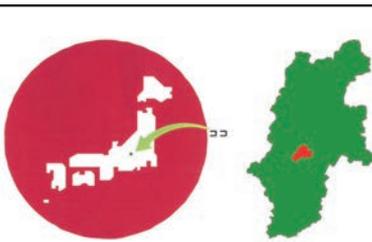
昭和30年代からの工場化等に伴いホタルの数もしだいに少なくなってきたが、町のホタルを守るための並々ならぬ努力により、松尾峡では昔のようにほたるが見られるようになった。

6月上旬～中旬の最盛期には町をあげて盛大なほたる祭りが行われる。

辰野町ホームページより抜粋

ホタルの名所辰野町松尾峡。かつてより辰野の自然はゲンジボタルの発生に適していた。

諏訪湖から流れる天竜川の水が、ホタルやその食物のカワニナ等の水生生物を育てたからだ。



### 辰野町は日本のど真ん中

緯度と経度が0分00秒で交わる点（ゼロポイント）は日本国内に約40か所。その中でも辰野町のゼロポイントは北緯36度と東経138度が交わり、「日本の地理的中心」と「信州学大全」（元長野県立歴史館館長市川健夫氏著）に記載されている。